

野口レポート

NO. 151

平成21年4月1日

発行: 有限会社アルファ野口 〒211-0012

川崎市中原区中丸子 538 ムルベ-ユマルタ 1F

TEL 044-422-1337 FAX 044-455-0208

文責: 野口 賢次

野口レポートが本になりました

10年前まだ駆け出しのころでした。ある資産情報誌に掲載されていた遺言の話に目がとまりました。税理士先生が、子どものない夫婦へ遺言の必要性を書いていました。

だが、法律や税務に終始しており、その文面からは人としての温もり、優しさ、思いやりを感じることはできませんでした。

相続や遺言で一番大切なのは法律や税務だけでなく、心の部分ではないか、ならば自分が書いたらどうなるか、それが「第3順位の相続と遺留分」を書いた野口レポート第1号です。以来毎月1回、読者様の励ましを支えとし、13年間続けることができました。

発行にあたり、常に二つのこだわりを持っています。

一つは、書きだめをしないことです。

心のなかに感動の余韻があるうちに皆様にお伝えしたいからです。

書きだめは感動が薄れ心が伝わりません。

もう一つは、宛名はすべて手書していることです。

以前は万年筆を使っていましたが、数が多く腱鞘炎を起こしてしまい、今は毛筆を使用しています。お世辞にも上手な字とは言えませんが、心を込めて書いています。住所録は葉書を利用し、一枚お一人とし、一枚いちまいめくっていきます。目がずれないので確実に書くことができます。丸1日を費やす超アナログ作業です。

お名前を書く度に、お元気かなあ～、どうされているかなあ～と、
お顔が目に浮かびます。便利な時代にあえて不便を選んでいる理由
は、手書きすることで毎月1回読者様と心のなかでお会いすること
ができるからです。これは自分に課した修行でもあります。

この野口レポートも今回で151号となりました。

「財産と幸せは一致するとは限りませんよ。相続は譲った人が幸
せになりますよ。親の財産をもらうことは、あたり前でなくありが
たいことですよ。ご先祖様や親に感謝しましょうね。」

相続は「感謝の気持ちと譲る心」に尽きると思います。これらの
言葉は、創刊号から書き続けてきました。

この度、週刊住宅新聞社さんや関係者のご尽力で1号から87号
までを、本として出版することができました。ありがたいことです。

また、この野口レポートがご縁で多くの出会いがありました。感
性ある限り書き続け、心の旬をお届けできればと思います。

発刊前に3冊ほど献本が届きました。

電車のなかでそっと広げてみました。著者が自分の本を読んでいる
とは誰も気がつきません。何か幸せな気分でした。

単独出版は初めてです。今後も時期をみながら87号以降の野口
レポートを続編として出版したいと考えています。

この本が、「相続をむかえる人」「相続で悩んでいる人」「相続をア
ドバイスする人」の一助となり、相続を失敗する人を一人でも防ぐ
ことができたなら、こんなうれしいことはありません。